

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

# AGU News



AGUニュース第53号 [2010年8月~10月号]

## 2010 青山学院大学

No. **53**  
広報入試センター広報課  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL. 03-3409-8111(代表)  
URL. <http://www.aoyama.ac.jp>

### 特集

## 学校法人 青山学院 第13代院長に、 山北 宣久氏が就任しました

開設2年目を迎えた新学部・学科の現状を学部長と学生が語る  
〈教育人間科学部〉〈経営学部マーケティング学科〉

**TOPICS** 2009年度の進路・就職状況について  
理工学研究科の院生が、数々の国際会議や学会等で高い評価を得ています  
活躍する青学スポーツ

**報告・お知らせ** 2010年度ペアレンツウィークエンド 今後の開催日程  
大学学費後期納付について  
2010年度「青学オープンカレッジ」夏期講座が開講します

**誌上公開講座** 青学オープンカレッジ 青山リレートーク  
日本外交の課題  
— 普天間基地問題と日米関係の将来を中心に —

**INFORMATION** 夏期休業期間中の窓口案内  
AOYAMA GREEN FESTIVAL(同窓祭)開催のお知らせ  
2011年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程



青山キャンパス

# 学校法人青山学院 第13代院長に、 山北 宣久氏が就任しました

2010年5月27日の理事会において、山北宣久氏が学校法人青山学院の第13代院長に選出されました。

青山学院における院長の職務は、理事長のもとで、設置する幼稚園から大学・大学院までの各学校の教育を統轄することにあります。

山北新院長の任期は2010年7月1日からの4年間。

新しい青山学院の歴史と伝統がはじまります。

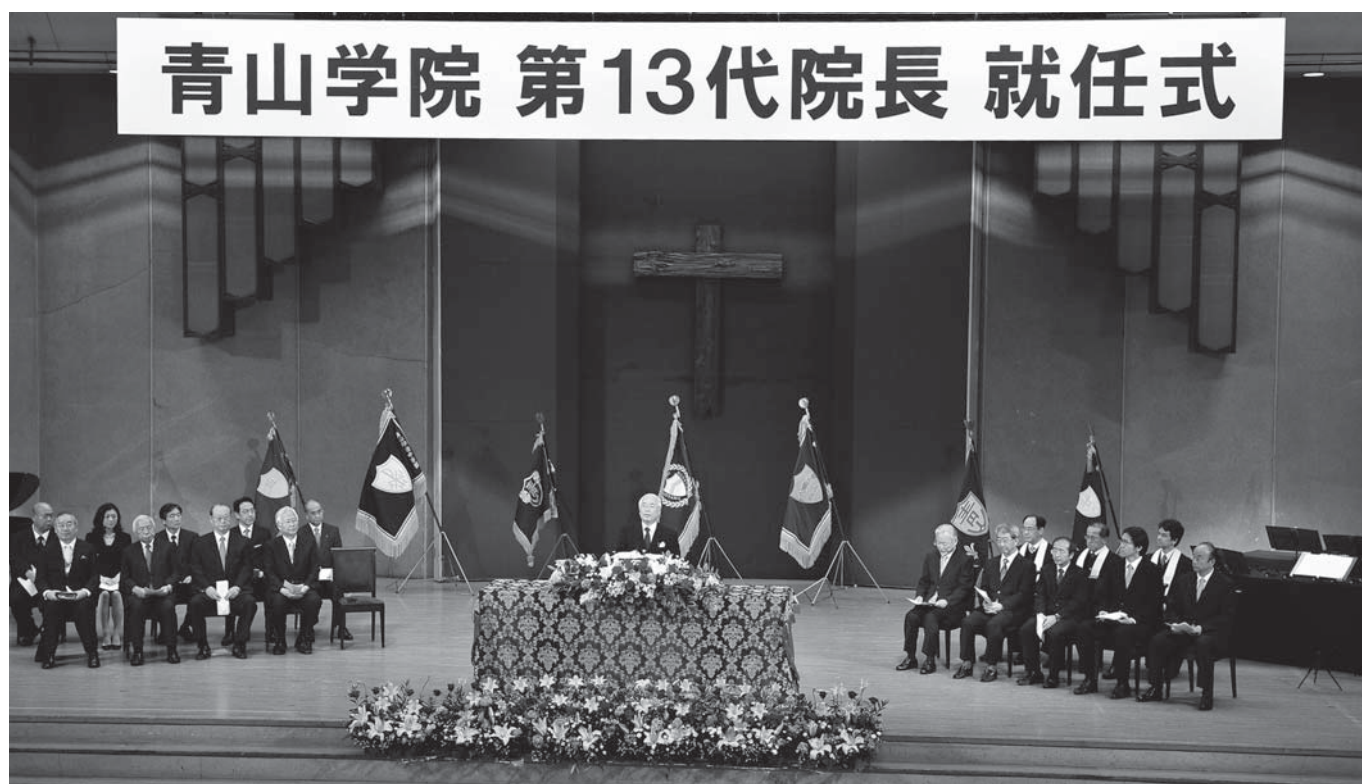
山北院長の就任を受け、7月1日(木)に「青山学院 第13代院長就任式(於:青山学院講堂)」が挙行されました。就任式当日は、ご来賓としてお迎えした野本真也キリスト教学校教育同盟理事長(学校法人同志社理事長)をはじめ、学院関係者、キリスト教学校教育同盟の方々、更新伝道会や山北院長の教会関係者の方々、そして卒業生など、総勢1,000名を超える人が講堂に集いました。山北院長は「就任の辞」のなかで、聖書の言葉を引用しつつ、また、ときにはユーモアも交えながら、新院長としての決意を表明。「主イエスにあって、互いに仕え合うことによって、私たちはひとつになろうではありませんか」との言葉に、大きな

拍手が起こり、場内がまさに一体感に包まれるなど、“新しい青山学院”の第一歩を印象づける盛大な式典となりました。

山北宣久新院長は、1941年生まれの69歳。1963年3月に立教大学文学部キリスト教学科を卒業。その後1966年3月に東京神学大学大学院修士課程を修了しました。そして1977年1月より日本基督教団聖ヶ丘教会主任牧師となり、現在に至っています。その間、2002年6月より東京神学大学評議員・理事、2002年10月より日本基督教団総会議長、2005年4月より日本キリスト教連合会委員長、2010年4月より日本宗教連盟理事長に就任し、現在に至っ

ています。また、1988年から2010年には東洋英和女学院短期大学、さらには青山学院女子短期大学でも教鞭を執った経歴があります。現在も日本基督教団聖ヶ丘教会の主任牧師であるとともに、日本基督教団総会議長を務めており、「一旦任された仕事を中途半端で終えたくない」との山北院長の意向により、今しばらくは、これらの職を兼務する予定です。

なお、6月30日まで院長代行を務めた半田正夫氏(常務理事)とともに、井田昌之氏(理事・大学院国際マネジメント研究科教授)が副院長に就任いたしました。





## 日本のキリスト教界のリーダーであり、教学面にも豊富な実績。 青山学院の院長にふさわしい方をお迎えできました。



理事長 松澤 建

青山学院は、キリスト教信仰に基づく建学の精神を具現化するために、ここにもっともふさわしい人物として山北宣久氏を院長に迎えることとなりました。このことは、青山学院のすべてを総理する責任を担う理事長として大いなる喜びです。山北先生は日本基督教団聖ヶ丘教会主任牧師と

して、30数年にわたりキリスト教の活動に従事され、日本基督教団総会議長としても8年間の実績に加え、日本宗教連盟理事長にも就任されるなど、キリスト教界のみならず、日本の宗教界全体のリーダーとしてもご活躍されています。

青山学院は、135周年を迎えた昨年、2009年を「改革の幕開けの年」と位置づけて、学院全体で一体となって改革にとりくんでおります。この新たな体制のもとで、山北院長とともに、ゆるぎない建学の精神の堅持と学院の今後の一層の発展を目指してまいります。

## これもすべて神の導きによるものと心を定め、 青山学院の発展のためにお仕えしてまいります。



院長 山北 宣久

青山学院の136年にわたる歴史は、23歳の若さで来日した創設者の一人、ドーラ・E・スクーンメーカー女史をはじめとする多くの宣教師、先達のご労苦によって築き上げられてまいりました。青山学院は136年の歴史の中で、青山学院の青をイメージするevergreenであり続けました。それは青山

学院の歴史のなかで、戦災、震災、また人災ともいえる混乱の中にあっても礼拝をやめなかったからです。

これからの時代は、一段と厳しさを増していく時代ですが、それゆえに神の愛の導きにより、青山学院は暖かさや明るさをもって、これまでの歴史と伝統を守り、苦難、艱難、困難を乗り越えていきたいと思っております。私は院長として、松澤理事長とともに、幼稚園から大学・大学院までの各学校を統轄するという職責を全うしていきたいと存じます。

## 新院長からのお力添えをいただきながら、 今後も人間性豊かな学生を社会へと送り出します。



学長 伊藤 定良

就任式等で山北新院長のお言葉を拝聴し、青山学院の歴史や伝統をはじめ、現在の課題について深くご理解されていることに感銘を受け、同時に心強く感じました。スクールモットー「地の塩、世の光」に関連し、人に仕え、世に仕える人々の育成が青山学院の使命だと説かれましたが、幼稚園

から大学までを備える本学院において、大学はまさに“集大成”の学びを提供する場。学生の人格を形成し、社会へと送り出す役割を担っていることを再認識いたしました。

大学教育には「創造の場」「学びの場」「出会いの場」の3つの場が重要です。それらの要素がすべて満たされてこそ、本学が目指す人間の育成にもつながります。今後2012年の4年間一貫教育の実施等、大きな改革が控えておりますが、よりよい教育環境の充実のためにご支援いただければ幸いです。

# 開設2年目を迎えた新学部・学科の現状を学部長と学生が語る 〈教育人間科学部X経営学部マーケティング学科〉

2009年4月に本学は新学部「教育人間科学部(教育学科・心理学科)」と新学科「経営学部マーケティング学科」を開設しました。

学部長と学生による座談会を実施し、時代が求める教育の場を提供すべく誕生し1年を経過した新しい学部と学科の現状について聞きました。

## 教育人間科学部



「人間」について教育と心理の両面からアプローチし、1+1が3にも4にもなる学びを目指しています。

### 「教育」と「心理」のコラボによる相乗効果が大きな特色

**池田** 教育学科と心理学科を融合する形で誕生した教育人間科学部ですが、おふたりがそれぞれの学科を志望したきっかけは何だったのですか。

**長谷川** 高校2年の頃に「自分が将来やりたことは何だろう」と真剣に考えました。そのとき今の自分がいるのは、これまでにお世話になった多くの先生方のおかげだと気づいたのです。それで自分も子どもたちを成長させるような仕事をしたいと考え、教師になろうと決めました。

**池田** 教育系の大学は数多くありますが、そのなかで本学を選んだ理由は何ですか。

**長谷川** 教育学科と心理学科で構成されていることで、心理的な面も学べると考えました。教師として子どもの心理状態を把握するのは大切なことなので、子どもの気持ちを理解するのに役立つと思ったのです。

**池田** 増田さんはいかがですか。

**増田** 私は、小さい頃からすごく神経質なところがあり、そういった人間の心理的な部分に興味がありました。心理学科なら人間についてもっと深く理解できると思ったのです。また、心理学科は文学部に所属している大学が多いなかで、青学は教育人間科学部という独立した学部が新設されると聞き、より専門的に学べると感じて進学を決めました。

**池田** 両学科は本学でも、もともとは文学部に所属していました。それが時代の変化にともない、理論と実践を恒常的に繰り返す研究方

法を特質とする“教育・心理系”の学問分野は、“文学・歴史系”の人間研究とは目指すべき方向性が異なると考えられ始め、新学部の開設へとつながっていったのです。

では、実際に1年間、本学部で学んでの率直な感想を聞かせてください。

**長谷川** いい意味で予想と違いました。大学では教育論だけでなく心理面も含めてより広く学びたいと考えていましたが、そんな心配は必要なかったくらい本当に幅広いんです(笑)。でも広い視野を持った教育者になるには、いろいろな知識が必要なんだと気合いを入れ直して勉強に向き合っていると

ころです。  
**増田** 私にとってこの1年間は、学科の専門的な学びというよりは、大学生として学べる態勢を整えるための時間だった気がします。あくまで受け身で勉強していた中学・高校時代と違い、大学では自ら学ぶ意志を持たないと成長できないことを実感しました。また1、2年生の間は、教育学科の人とも一緒に学ぶ科目が結構ありますが、他学科の人と話すことは刺激になります。ああ、こんな考え方もあるんだ、と気づかされることが多いです。

**長谷川** そうですね。心理系の科目では当然心理学科の学生が多いのですが、発言の着眼点が違って、いつも「すごいなあ」と感心しています。僕もいい刺激を受けていますね。

**池田** 教育と心理という学問的出会いもありますし、そのなかで人との出会いもあります。お互いに刺激し合うことで、今まで想像もしていなかったものが構築できることもあるはずで

私たち教育学科と心理学科との“コラボレーション”は、単に1+1=2ではなく、その結果が3にも4にもなることを期待し、また狙っています。いい相乗効果が生まれているようで安心しました。

### 両学科ともに“人との関わり”が大切になる分野

**池田** 2年生になると少しずつ専門的な科目も増えてきますが、カリキュラムや学びの面で満足できていますか。

**増田** 心理学科では2年生から毎週実験が始まってとても面白いです。視覚や触覚、知覚に関する実験など、最初は心理とどう関係するんだろうと思っていましたが、進めていくうちに、心理を学ぶことは「人間」を学ぶこと、“心理は人間そのもの”だと理解できてきました。人間理解には人間に関するすべてのことを知る必要があります。人間の感覚的なものを実験するのもある意味で当然だと考えられるようになりました。ただ…。

**池田** ただ?

**増田** 毎週実験するだけでOKだと楽しいんですけど、実験が終わるごとに課せられるレポートは大変です(笑)。

**長谷川** 教育学科で学ぶことは、そのひとつ





教育人間科学部長  
池田 稔



教育人間科学部教育学科2年  
長谷川 浩幸君



教育人間科学部心理学科2年  
増田 千晃さん

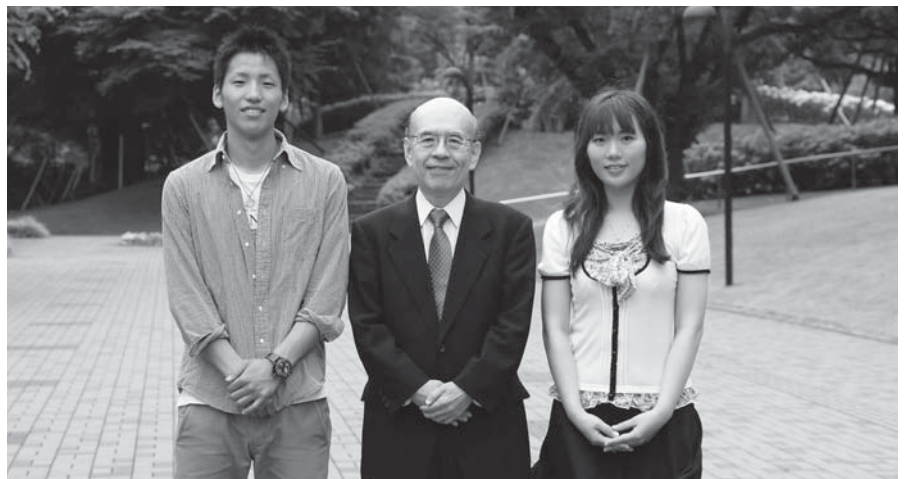
ひとつが教師として将来働くために必要なことだと実感できます。僕は小学校教員になることが目標ですが、2年生から100人以上の学生の前で自分が調べた教育の課題について発表するなど、実践的な学びも増えてきました。人への教え方を教わるのは難しいことですが、学ぶごとに目標が明確になっていくようでやる気が湧きます。

**池田** 教育も心理も人との関わりが大切な分野です。そういう意味では、勉強はもちろんのこと、大学生活のなかでいろいろな経験をしてもらいたいと考えています。何か課外活動に取り組んでいますか。

**増田** 私は書道部に所属しています。これまで部活に入ったり、本格的に習ったりしたわけではありませんが、授業や課題で提出した作品が賞をいただいたりなど、少し興味は持っていました。大学では勉強の気分転換にもなると思って入部しました。また、国際交流を経験できるアドバイザーグループにも参加しています。もともと洋楽や洋画が好きなのですが、実際に海外の人と交流できる機会は少ないので、いい経験ができると考えました。先日も英会話喫茶というところに行って、タイ、イギリス、セルビアなどいろんな国の人と英語で語り合えて楽しかったです。それに日本人とは異なる海外の人の考え方を知ることは、絶好の「人間理解」にもつながると思いました。

**長谷川** 僕は大学の児童福祉ボランティアサークル「青山子ども会」に所属し、相模原キャンパス周辺の小学生と積極的に交流しています。授業以外にかなりの時間を取られて大変な部分もありますが、子どもの安全をすべて任されて責任ある行動が求められるなど、普段は味わえない貴重な体験です。自分も子どもたちから多くのことを学び、成長させてもらっていると実感しています。

**池田** おふたりとも貴重な経験をされているようですばらしいですね。しかも自分の勉強や将来にも関連させて考えているのが理想的で



す。これからどんどん勉強も忙しくなるでしょうが、授業プラスαの活動にも精力的に取り組んでもらいたいと思います。

### 理論と実践を兼ね備えた「自己教育力」を修得

**池田** これから3年生、4年生と、より専門的で深い学びが展開されていくと思いますが、今後の大学生活で頑張りたいことや抱負を聞かせてもらえますか。

**長谷川** 3年生からの応用が求められる学びに対応できるように、とにかく基礎的なことをしっかりと身につけたいと考えています。これは1年間学んでわかったことですが、基礎知識が中途半端だと絶対に応用には対応できません。とにかく基礎づくりといえる1、2年生の授業で学ぶことを自分の力として修得したいです。それと「青山子ども会」のように実際に子どもたちと触れ合える機会を、これからも積極的に設けたいと考えています。母校の小学校では授業をサポートするボランティアも経験していますが、現場を知ることで見えてくるのがたくさんあるのです。楽しいことばかりでなく、教師の仕事の大変さを目の当たりにしますが、それがさらに教師を目指す強い思いにもつながっています。

**増田** 私は1年間勉強してきて、将来は臨床

系の道に進みたいと考えるようになりました。とくに人格障害や摂食障害などの研究に興味があります。ただその専門性に絞って勉強するのではなく、大学で学べることはすべて吸収するつもりでいろいろな分野にチャレンジし、そのなかから本当に進みたい道と出会えればいいですね。心理学科では3年生から卒業研究にも取りかかると聞いていますので、私も幅広い分野に対応できる基礎力をしっかり身につけたいですね。

**池田** 新しい学部を設置し、「入学してきた学生にどのような学修・研究力を身につけさせるべきか」は、大学側の大きな課題です。「人間」について学び、理解するには、コミュニケーション能力や伝達能力はもちろんですが、「理論と実践」や「専門的知識と幅広い視野」というように複眼的な考え方も必要です。理論と実践を兼ね備えた「自己教育力」を身につけることが、他者と関わる仕事をする人には必要不可欠だと考えており、それらを修得できるカリキュラムを教育人間科学部では開設しています。今日、おふたりの話を聞いて、まだ1年と少しの実績ではありますが、進む方向は間違っていないという自信になりました。これからも夢に向かって頑張ってください。我々もみなさんの夢をしっかりとサポートしていきます。今日はありがとうございました。

開設2年目を迎えた新学部・学科の現状を学部長と学生が語る。  
〈教育人間科学部X経営学部マーケティング学科〉



# 経営学部マーケティング学科

青山マーケティングがわかれば、  
世の中がもっと面白く感じられます。

## 現代の社会が求める 新しい学び「青山マーケティング」

**田中** 経営学部は、2009年4月からマーケティング学科を開設し、従来の経営学科とともに2学科体制となりました。企業や組織にとって内部の問題解決に必要となる知を「経営学」とすれば、企業と組織が外部とコミュニケーションを図る際に求められる知が「マーケティング」といえます。マーケティング学科は、現代の社会に求められる新しい学びを発信するべく設置したわけですが、おふたりが本学科を選んだ経緯を教えてください。

**廣瀬** 高校時代に見たドラマがきっかけでした。CMプランナーが主役のストーリーを通じて、商品の売り方や消費者の動向分析など、マーケティングの専門知識を興味深く知ることができたのです。大学選びもすべて経営学系に絞っていたなかで、青山学院大学にマーケティング学科ができることを知り、興味のあった「マーケティング」そのものを学べると決めてました。

**新井** 僕はもともとマーケティングという言葉さえ知らなかったのですが、何かのテレビで「マーケティングはモノを売る仕組みを創ること」と語られていたのを見て、少し興味を持ちました。そこで自分なりに調べてみると、将来企業に入ったとき、自分の言葉やアイデアが、売上アップに貢献したり、世の中に大きなブームを生み出したりできるかも考えるとワクワクし、大学で深く勉強してみたいと思いました。

**田中** 本学科に対して、「新設」という不安はなかったですか。

**新井** 実は高校も新設コースに入学したので、自分たちで新しい歴史を創るやりがいや満足感を理解しており、あまり不安は感じませんでした。

**廣瀬** 私は正直、少し不安感もありましたが、逆に自分たちがやりたいことをできる自由さもあるのではと思い、青山学院を選びました。

**田中** ここまで1年間学んでの感想はいかがですか。

**廣瀬** 1年生は、まだまだ基礎の段階ですが、マーケティングに関連する科目を学ぶことで、「私が勉強したかったのはこの分野だ」と、再確認できました。

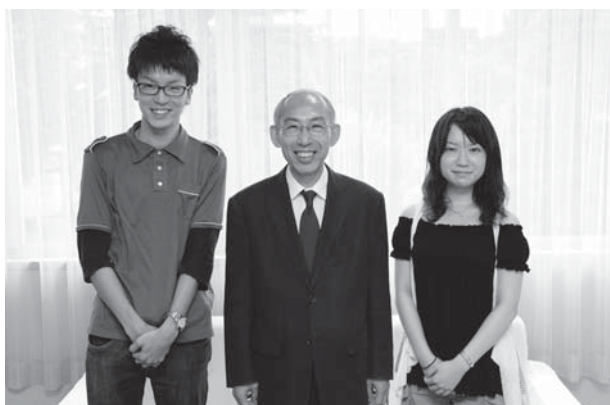
**田中** マーケティング学科で学ぶ意義が見えてきたということですね。

**廣瀬** はい。まだ何となくですが、いろいろと勉強するなかで、自分は新しい企画開発などに携わるよりは、戦略的な提案に強い関心を抱いていることに気づきました。例えば新規事業を起こすよりも、既存のデータを調べ直し、違った視点から戦略を創造するといった感じでしょうか。

**田中** 新井君はいかがですか。

**新井** 1年生では基礎的な学びが中心で、もう少し実践的な授業があればいいなと思っていましたが、2年生になって、新規ビジネスを企画して発表する「サイバービジネス実習」という科目をはじめ、実践的な学びが増えてきたので面白いです。

**田中** サイバービジネス実習は、実は経営学科の科目という位置づけですが、経営学科とマーケティング学科の垣根を低くし、お互いの科目を相互に履修しやすくしているのも本学経営学部の特徴でもあります。そういう意味では、経営学科の学生と一緒に学ぶことも刺激になっているのではないですか。



**新井** そうですね。いろいろと知らなかったことが見えてきますし、勉強になる点は数多くあります。

## マーケティングの基礎は「経営学」「商学」「会計学」の3本柱

**田中** 1年生ではマーケティングの基礎を学ぶわけですが、本学科では専門基礎科目として「経営学基礎論」「商学基礎論」「会計学基礎論」の3つを用意しています。実際に学んでみた感想を聞かせてください。

**廣瀬** 経営学は理論的な感じが強いですね。それに対して商学は入学前に抱いていたマーケティングのイメージに近い科目だと思いました。教科書の内容だけではなく、実際にニュースで話題になっている事例を用いた解説もあり、とてもわかりやすかったです。あと会計学は、「ああ、これが簿記かあ…」っていう感じでした(笑)。

**新井** 僕も商学は「自分が学びたかった学問分野」と感じましたね。また経営学は授業の最後にその日の学びについて学生同士でディスカッションするのが刺激になりました。会計学の簿記に関しては、最初は難しく思いましたが、



経営学部長  
田中 正郎



経営学部マーケティング学科2年  
新井 翔也君



経営学部マーケティング学科2年  
廣瀬 うららさん

実際付き合ってみると、シンプルで基本的な理論なのに多彩に応用できる仕組みに面白さを感じました。ぜひ簿記検定にもチャレンジしたいと考えています。

**田中** 2年生になると応用や専門性の高い科目が増えてきます。そんなときに1年生で学んだ「基礎」が必ず生きてくるはずですよ。

**廣瀬** 確かに2年生になってから、いろいろな授業で先生がお話される内容に対して、「1年生の基礎科目で習ったことだ」と気づくことがあります。

**新井** よく考えると「経営学」「商学」「会計学」の3つは、企業活動の三大重要要素ですよ。「こんなに大切な基礎の段階を1年生の間に習っていたんだなあ」と今更ながら気づきました。遅いですよ（笑）。

**田中** いえいえ、本学科で学べば、知らず知らずのうちに専門知識が身につくことが実証されたわけですからよしとしましょう（笑）。

ところで、大学で「マーケティング」を学んでから、何か自分自身で変わったことはありますか。

**廣瀬** 普段の買い物でも、今まで気づかなかったいろいろなものが見えてくるようになりました。例えば、スーパーとコンビニと同じ商品でも価格が違ったりしますよね。大体スーパーの方が安いのですが、マーケティングを学ぶとこの価格差の“謎”が解けます。あとはお店の棚の陳列などにも、無意識にお客様に商品を手に取らせるための戦略が仕込まれていたりします。そういったことにこっそり気づき、ひとりで「なるほど」と納得している日々です（笑）。

**新井** お店でお茶を買ったとして、自分が何故そのブランドを選んだのかは、マーケティング論的には明確な理由付けができるわけですよ。そういうことを知ると、どんどん世の中の構造が面白くなります。ビジネスの具体的な成功事例などを学ぶ授業もありますが、商品販売の裏側の仕組みが見えてきました。

### 積極的で好奇心旺盛な学生が マーケティング学科の特色

**田中** 1年間学んでみて、マーケティング学科はどんな学生向きだと感じていますか。

**新井** しっかり人の話を聞ける人が向いていると思います。時代のニーズをとらえる必要があるため、そのためには多くの人の話を聞いて見聞を広げることが大切です。いろいろな人の価値観に共感できるような好奇心旺盛な人であれば、充実した学生生活を送れると思います。

**廣瀬** 経営学科と比べても女性の数が多いですね。これは私なりの分析ですが、やはり女性の方が流行に敏感なので、マーケティングに興味のある人も多いのではないのでしょうか。何が流行しているのか常にアンテナを張り巡らせ、またそれを確かめに行く行動力を備えた人も多いです。スイーツの食べ比べをして独自のランキングを発表してくれる人もいます（笑）。

**田中** マーケティング学科には、「自分たちで何かやりたい」と前向きに考える学生が多いと私も実感しています。新学科を設置するにあたり、やはり教員側もどんな学生が集まるのかは不安に感じるものです。想像していた以上に積極的な学生が集まったことは、うれしい驚きでした。

マーケティング系の学科は他大学にもありますが、本学科が、他大学のマーケティング系学

科と比べて勝っているものは、学生たちが将来を自分たちで創り出そうとする意欲だと感じています。おふたりもそろそろ将来の目標は明確になってきましたか。

**廣瀬** 自分が経営戦略に興味があることはわかっても、それをどう将来の仕事に結びつけるべきかは見えていません。大学の学びを通じて自分が進むべき道を見つけ出したいと考えています。

**新井** 大学で勉強するまでは、マーケティングの知識を活かす仕事といってもピンとこなかったのですが、最近はブランドマネージャーという企業のブランドを総括するポジションがあることを知って興味を持っています。ただし、どの業界がいいかなどの詳細は、まだ何も決まっていません。あまり早く決めつけて自分の可能性を狭めるよりは、幅広く学ぶなかから探し出したいと思っています。

**田中** 3年生になれば、社会の第一線で活躍されている実務家の方を講師として招き、ビジネスの最前線に触れる機会を増やします。

そもそも青山マーケティングは今あるものではありません。在学生の皆さんや卒業生ならびに我々教職員が、青山学院のキャンパスでいっしょに創りだしていくものです。創造することの喜びをともに味わいましょう。

今日はありがとうございました。



## 2009年度の進路・就職状況について



就職部長  
**港 徹雄**  
国際政治経済学部  
国際経済学科教授

### 逆境のなか健闘

2009年度の就職環境について、1995—2003年度の就職氷河期よりも厳しいとの報道が毎日のようになされてきました。確かに、2009年度は輸出型メーカーや金融機関などの大企業が軒並み採用予定数を大幅に縮減するなど困難な就職活動を強いられました。しかしながら、結果的には本学の就職率や進路決定率は就職氷河期ほどには悪化していません。

2009年度の進路(就職・進学計)決定率は本学全体で84.5%、2008年度の88.5%に比べて4.0ポイント低下しました。しかし、この決定率は就職環境が好転した2005—2006年度の決定率に相当するもので、逆境のなか2009年度卒業生は健闘したと評価できます。

人文・社会科学系学部(昼間部)の進路決定率は85.2%(前年度89.1%)でした。このうち、就職者率は77.4%と前年度比5.7ポイント低下しましたが進学者率は7.8%で1.7ポイント増加しました。進路決定率を学部別に見ると、国際政治経済学部が92.0%と前年度と同率の高い決定率となりました。同学部の国際コミュニケーション学科は2009年度初めて卒業生を輩出しましたが、同学科の進路決定率は100%となっています。また、文学部(進路決定率85.6%)は前年度比3.2ポイント減と小幅な低下にとどまっています。これに対して経営学部(同83.3%)では前年度比5.8ポイント減、法学部

(同81.3%)は同5.0ポイント減と低下幅がやや拡大しています。経済学部(同86.3%)では前年度比4.5ポイント低下しました。第二部(同73.6%)では同4.5ポイント低下し、両学部は全学平均に近い低下幅となっています。

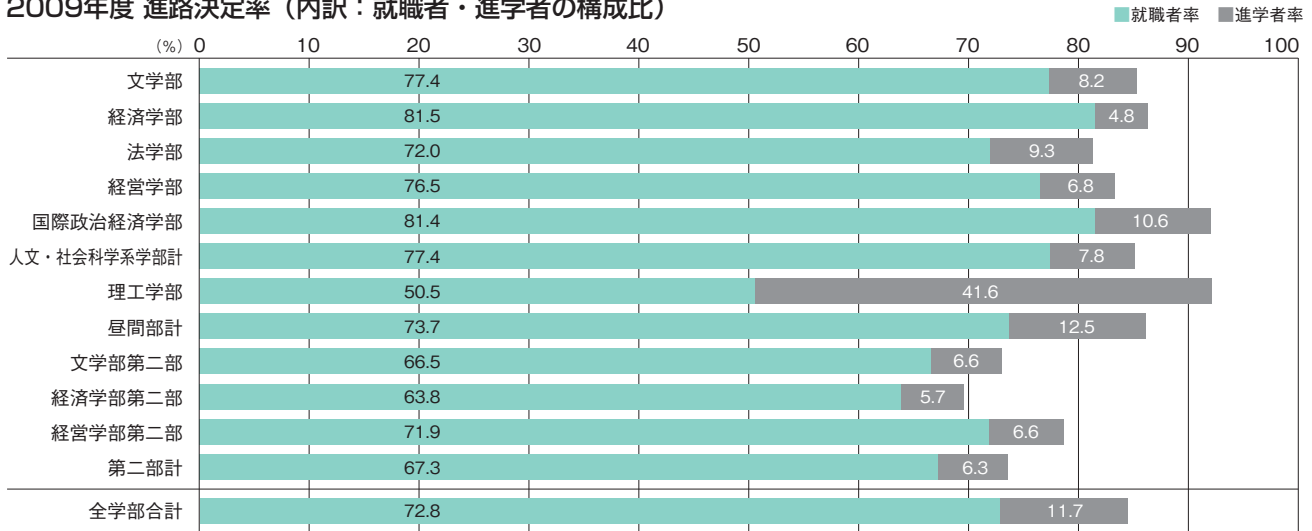
理工学部では、就職者率は50.5%と前年度の60.9%から10.4ポイントの大幅低下となりましたが、進学者率が41.6%と前年度の34.4%から7.2ポイントの大幅増加となり、進路決定率は92.2%と前年度比3.2ポイントの小幅低下にとどまりました。

### 厳選化が一層進展する見込み

2009年度の企業の求人活動をみると、就職氷河期のように求人全面的に停止する企業は少数で、多くの企業では求人数を縮減したうえで有能な人材を厳選して採用しようとする姿勢が強まっています。このため面接では就職志望者が大学で学業および学業以外(サークルやボランティア活動等)の両面でいかに充実した学生生活を過ごしてきたかを詳細に質問する傾向があります。こうした質問に具体的に回答できる学生は内定を得やすいのですが、内容の乏しい学生は苦戦を強いられています。

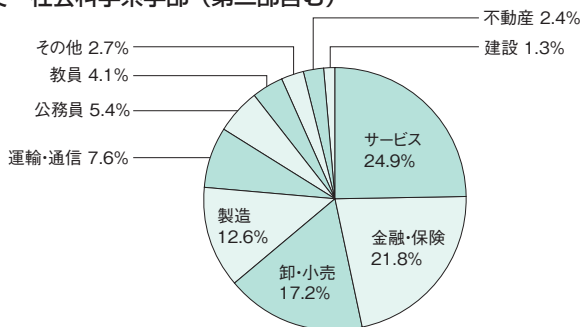
2010年度については、求人数の増加予定企業比率が減少予定企業比率を若干上回るなど就職環境はやや好転の兆しが認められます。しかし、採用厳選傾向は今後も強まると考えられます。したがって興味をもてる学科目を見出し深く学ぶこと、問題意識をもって能動的に学習すること、つまり大学生としての学力を高めることが結果的に厳しい就職戦線に勝ち抜く最良の戦略になると考えられます。

### 2009年度 進路決定率(内訳:就職者・進学者の構成比)

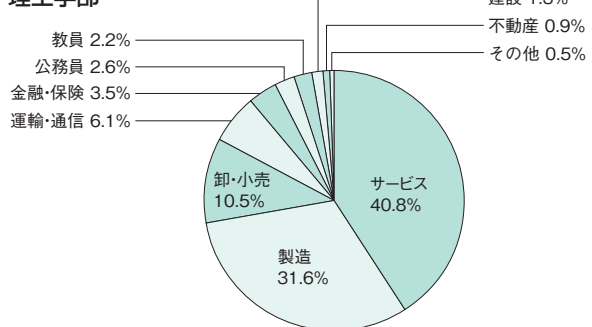


### 業種別 就職決定率(新規採用決定者率)

#### 人文・社会科学系学部(第二部含む)



#### 理工学部





# 社会に広く門戸を開く「青山学院大学大学院」

～本学大学院・専門職大学院への進学を考えるみなさんへ～



副学長  
長谷川 信

従来の大学院では、学部を卒業した学生がそのまま大学院生として研究室に残り、質の高い研究を続けることで一人前の研究者として世に輩出されるという流れが一般的でした。もちろんその考え方は今も生きていますし、現に多くの優れた研究者が大学院から単立しています。しかし、多様化する現代社会を背景に、学部卒業生だけでなく、社会人や留学生がより高度な知識を学ぶための教育機

関として、大学院に大きな期待が寄せられています。

すでに実務経験のある社会人が大学院で学ぶ場合、身につけた技能は、かなりピンポイントな専門的内容になると想像できます。逆に学びの場を提供する大学院側から見れば、求められる学問領域は、院生それぞれによって異なるため、多領域にわたることになります。社会人に門戸を開くことは、“広く学べる環境”とともに、“より深く学べる環境”を用意することが必要となるのです。それは“基礎的理論”と“専門的实践”とが融合した学びと言い換えられるかもしれません。

本学の大学院の大きな特色として、3つの専門職大学院(国際マ

ネジメント研究科、法務研究科、会計プロフェッション研究科)を、早い段階から設置している点が挙げられます。これは、「より高度な専門教育を受けたい」との社会からの要請に応えたもので、院生には社会人の方が多く、研究科での学びを自らの仕事の成果につなげようと高い意識で学ばれています。

また、2008年度より総合文化政策学研究科と社会情報学研究科を新設し、さらに2009年度には、教育人間科学研究科が設置されました。大学院は現在、学部に対応した9研究科を擁した組織となっています。これらの研究科については、研究者養成という目的とともに、社会人および留学生の方々の多様なニーズに対応できる準備を整えることが大切です。そのためにも高度な研究教育と、社会の要請に応える教育をバランスよく配置したプログラムを柔軟に提供していきたいと考えています。

その他、制度的な面からも昼夜開講制、学部と大学院との一貫教育、助成金制度の充実など、大学院への進学を考えている方々をバックアップする体制も整えています。ぜひとも多くの方々に、本学大学院、および専門職大学院に進学いただき、高い目的意識をともなう学びを実践していただきたいと思います。

## 2010年度大学院在籍学生数

(博士後期課程の学生数を除く)

博士前期課程・修士課程・一貫制博士課程・専門職学位課程 2010.5.1現在			
研究科・専攻	学内進学者数	在籍学生数	
文学	教育学※(2009年度より募集停止)	—	2
	心理学※(2009年度より募集停止)	—	1
	英米文学※	—	36
	フランス文学・語学	—	8
	日本文学・日本語	—	14
	史学	—	32
	小計	—	93
教育人間科学	教育学※	—	16
	心理学※	2	18
	小計	2	34
経済学	経済学	1	7
	公共・地域マネジメント	2	20
	小計	3	27
法学	私法	0	7
	公法	1	13
	ビジネス法務●	—	96
	小計	1	116
経営学	経営学※	2	22
国際政治経済学	国際政治学※	4	37
	国際経済学※	0	15
	国際コミュニケーション※	1	45
	小計	5	97
総合文化政策学	総合文化政策学	1	4
	文化創造マネジメント※	3	35
	小計	4	39
理工学	理工学	152	344
社会情報学	社会情報学	1	46
国際マネジメント	国際マネジメントサイエンス	—	0
国際マネジメント★	国際マネジメント※	—	265
法務★	法務	—	104
会計プロフェッション★	会計プロフェッション	—	185
合計	170	1372	

学内進学者数は学内進学者選抜試験および内部推薦入試による2010年4月入学者数。

※印の専攻は昼夜開講制。

●印の専攻は平日夜間および土曜日の開講制。★印の研究科は専門職大学院。

## 2010年度教員採用試験報告

(2009年度実施)

本学は毎年数多くの教員を輩出し、社会から高い評価を得ています。今年度は、専任教諭として92人が全国の学校等に赴任しました。

2009年度教員免許状取得および2010年度教員採用状況 2010.4.30現在

	免許状取得件数		採用者数						合計	
			公立学校		私立学校		計			
	昼間部	第二部(夜間部)	昼間部	第二部(夜間部)	昼間部	第二部(夜間部)	昼間部	第二部(夜間部)		
幼稚園	38	16	0	0	17	3	17	3	20	
小学校	68	43	25	14	6	0	31	14	45	
中学校	英語	70	2	4	0	5	0	9	0	9
	フランス語	3	/	0	/	0	/	0	/	0
	国語	24	11	2	1	5	0	7	1	8
	社会	31	2	2	0	1	0	3	0	3
	理科	10	/	0	/	0	/	0	/	0
	数学	13	/	2	/	0	/	2	/	2
高等学校	英語	76	2	1	0	0	0	1	0	1
	フランス語	4	/	0	/	0	/	0	/	0
	国語	29	11	1	0	1	0	2	0	2
	地理歴史	27	2	0	0	0	0	0	0	0
	公民	11	0	0	0	0	0	0	0	0
	理科	10	/	0	/	0	/	0	/	0
	数学	14	/	2	/	0	/	2	/	2
	商業	1	1	0	/	0	/	0	/	0
	工業	0	/	0	/	0	/	0	/	0
情報	0	/	0	/	0	/	0	/	0	
計	253※	58※	39	15	35	3	74	18	92	

※印の免許状取得件数の計は、人数計(大学院生および科目等履修生は除く)。

採用者数は2010年4月30日現在届け出のあった者のみ(非常勤および臨時講師は除く)。

中高一貫校での就任の場合は中学校の採用者数に含む。

# 理工学研究科の院生が、 数々の国際会議や学会等で高い評価を得ています

## 社団法人自動車技術会の派遣学生として 国際会議に参加



加藤 祐樹君

理工学研究科博士前期課程2年  
機械創造コース：林光一研究室

国際会議「FISITA (国際自動車技術会連盟 World Automotive Congress)」は、2年に1度開催される自動車技術に関する最も歴史のある国際会議です。5月30日(日)から6月4日(金)にブダペストで開催された同会議の「Student Congress」に、加藤祐樹さんが日本代表学生の推薦枠のひとりに選ばれ、日頃の研究成果を発表しました。

私が発表した「圧縮空気自動車」は、高圧の空気と電気を使ったハイブリッド構造で車を走らせるため、ガソリンのようにケミカルな化学反応に頼るこ

となく、トータル的な環境性能に優れていることが特色です。走行距離など動力性能の限界が大きな課題でしたが、今回考えられる数々の可能性を追求した結果、数値シミュレーション的に電気自動車を上回る成果を見出すことができ、発表に臨みました。

会議では、世界的に電気自動車に関する発表がほとんどで、圧縮空気技術をはじめ次世代エネルギーへの関心はあまり高くないと感じました。それでも一緒に日本代表として参加した他大学の学生が高く評価してくれるなど、お互いに刺激を与え合える仲間ができたことは大きな収穫です。それと同時に、彼らと話すことで日本が環境技術先進国であり、もっと世界をリードしていくべきだとの思いが強くなりました。圧縮空気自動車も、この先しっかりと研究が続けられ、世界中から大きな注目を浴びる技術へと進化する日が来ることを信じています。

## 社団法人腐食防食協会の講演大会 「材料と環境2010」で優秀講演賞を受賞



針生 博基君

理工学研究科博士前期課程1年  
機械創造コース：長秀雄研究室

5月12日(水)から14日(金)に開催された社団法人腐食防食協会の講演大会「材料と環境2010」において、針生博基さんの「異なる条件下での鋭敏化SUS304鋼のポリチオン酸SCCのAE計測」に関する発表が、若手研究者・技術者対象の「コンペティションセッション」で優秀講演賞を受賞しました。

金属材料が腐食し「割れ」が発生する応力腐食割れは、構造物の健全性を著しく損なう欠陥として、とくに原子炉などで問題視されているものです。私は、アコースティック・エミッション(AE)法という超音波を利用して応力腐食割れの状況を検知する研究に取り組んでおり、今回のコンペティションセッションで最新の研究成果を発表しました。従来は割れが発生してから慌てて調査を行うなど、対応が後手後手にまわってしまいがちでしたが、AE法を活用すれば、リアルタイムでの検知が可能となり、腐食の早期発見に大きく貢献できると考えています。

私が研究テーマに「腐食」を選んだのは、世の中の至るところで発生しているながら、実はそのシステムが明らかにされておらず、人間がコントロールできない未知の分野であることにやりがいを感じたからです。大きな学会での発表は今回が初めての経験で、他の方々の発表も素晴らしいと感じたので自分が優秀講演賞をいただけるとは思いませんでした。受賞の結果以上に、学会への参加で視野が広がった部分もあるので、今後の研究に活かしていきたいと思えます。

## アンテナ研究分野の国際会議「iWAT」で best paper prizeを受賞



長谷川 翔平君

理工学研究科博士前期課程2年  
電気電子工学コース：橋本修研究室

ポルトガル・リスボンで3月1日(月)から3日(水)にかけて開催された「2010 International Workshop on Antenna Technology: (略称:iWAT)」において、長谷川翔平さんがiWAT 2010 best paper prizeを受賞しました。長谷川さんの研究は日本無線株式会社との共同研究で行われましたが、Paper38件、Poster100件が発表されたなかから厳選された3件に入ったことから、研究内容に対する注目度の高さがうかがえます。

研究タイトルは「A Large Number of Phased Array Antenna with Low Grating Lobes Using Partially Driven Technique」。人工衛星との双方向通信を実現するためのアンテナについての研究ですが、おもに自動車等の移動体への配置が想定されています。通常のアンテナは天頂に向けて立っているため、指向性に限界があり、車が移動するたびにアンテナの方向を調整する必要があります。今回の研究では、アンテナの指向性を物理的ではなく、電子的に変えることを試んでいます。具体的には、243本の小さなアンテナを集結させたものを電氣的に制御。必要に応じて指向性を調整させる仕組みを採用しました。

日々の研究成果が国際的な会議で評価されたことは大変光栄です。ただし現段階では受信用であり、実用化には双方向への対応が必要のため、まだまだ多くの課題が残っています。それでも人工衛星と送受信が行えれば、場所を選ばず日本中どこでも車内がネットワーク化され、さまざまなメリットが生まれるはずなので、実用化を目指して引き続き研究に取り組みたいと思えます。

## 日本統計学会春季集会ポスターセッションで学生優秀発表賞を受賞



石黒 久稔君

理工学研究科博士前期課程1年  
マネジメントテクノロジーコース：天坂格郎研究室

3月7日(日)に本学青山キャンパスで開催された「第4回日本統計学会春季集会」のポスターセッションにおいて、石黒久稔さん(当時理工学部経営システム工学科4年)が代表を務めた研究発表「集客効果を高めるダイレクトメール法“PMOS-DM”の確立 ～統計科学と数理計画の戦略的活用～」が、学生優秀発表賞を受賞しました。同発表は石黒さんと同級生の松尾愛美さん、当時理工学研究科博士前期課程1年の小島拓さんとの共同研究でした。

例えば自動車メーカーの場合、ディーラーが送るダイレクトメールのポイント



小島 拓君

理工学研究科博士前期課程2年  
マネジメントテクノロジーコース：天坂格郎研究室

は「集客アップ」と「どの客層を集めるか」になり、誰宛に案内を送るのが重要です。実際にディーラーの営業担当者取材した結果、ダイレクトメールの送り先は、経験上の感覚で選んでいるのが実情のようでした。しかし、それではベテランと新人では、当然ながら結果にバラツキが出てしまいます。私たちが統計科学と数理計画から理論的に導き出したシステムを用いれば、誰がやっても集客力向上と同時に、狙った層の来店に一定の効果をもたらすことが可能となります。

受賞理由を冷静に考えてみると、単なる推論ではなく、実践して導き出した“結論”を発表できたことが説得力につながったのだと思います。実は、ある自動車会社のディーラーさんに協力いただき、イベント時に私たちのシステムを活用していただいたのです。その結果、イベントへの来店率がかなりアップしたことが数字的にも証明されました。天坂研究室では「理論と実際」をコンセプトに掲げていますが、その考えが正しかったことが実証できてよかったです。

## 日本機械学会の情報・知能・精密機器部門が設けるベストプレゼンテーション表彰を受賞



上原 和樹君

理工学研究科博士前期課程2年  
機械創造コース：渡邊昌宏研究室

日本機械学会の情報・知能・精密機器部門では、1年間を通して同部門が企画・主催した講演会での発表研究を対象に、聴衆が理解しやすく、かつ聴衆へのアピールが顕著だった発表者に対し「ベストプレゼンテーション表彰」を贈っており、昨年の受賞者に上原和樹さんが選ばれました。上原さんは、企業の研究者を含めたすべての発表者のなかから1名だけが選ばれたもので、価値ある受賞となりました。

太陽電池パネルや液晶ディスプレイなどで使用される機能性フィルムは、直接触れることが出来ないため非接触搬送により製造されます。そしてフィルムの搬送方向を転換する時、エアターバンという空気圧によりフィルムを浮上させる装置が使用されます。しかしこの時に発生する振動が技術的に大きな障壁となっています。私は、この振動の特性と発生メカニズムを解明する研究に取り組んでいます。ゼロから実験装置を製作し、実験を何度も繰り返し行った結果、異なる2種類の振動モードがあり、それらの振動が発生する条件を実験的に明らかにしました。

今回の発表ではその「振動」の様子を伝えるために動画を活用し、全体構成に特にこだわりました。またプレゼン時では、聴衆の表情などに気を配りながら柔軟に伝えることを意識しています。結果として、ベストプレゼンテーション表彰をいただけたことは大変光栄です。

近年、高機能性薄膜フィルムに関する研究は技術的な面だけでなく環境面でも世界中から注目を集める分野です。だからこそ私の研究が、フィルムの生産効率やハンドリング技術の向上に少しでも貢献できれば、さらに嬉しいですね。

## 研究発表の場は、一人ひとりが大きく成長するための貴重な実践の機会です

理工学研究科長 林 洋一

本研究科の院生が各学会等に積極的に参加し、数々の賞を受けていることを喜ばしく思います。理工学系の研究成果の多くは、地道な日々の努力の積み重ねから得られるものです。最後まで諦めずに取り組めば、きっと周りから評価してもらえることを実感できたのではないのでしょうか。

賞の受賞は、本人はもちろん、一緒に研究する仲間、そして研究室全体にも良い影響を与えます。お互いが切磋琢磨しながら、さらなる研究成果を目指した活発な取り組みにもつながっていくはず。また、研究発表の場は、専門家の方々からの確かな意見やアドバイスをいただける絶好の機会でもあります。とくに最近では海外で発表できる機会も増えており、院生たちは本当に素晴らしい経験を積んでいます。本研究科では、理工学部とも密に連携しながら、今後も学生や院生たちが実践を通じて成長できる場を積極的に用意していくつもりです。日々研究に情熱を注ぐ若い力に、ぜひともご期待ください。

# 活躍する青学スポーツ

男子バスケットボール部が「三冠」への第二步「関東大学選手権」で優勝



5月1日(土)から5月16日(日)までの日程で、118校が参加してトーナメント方式で行われた「第59回関東大学バスケットボール選手権大会」において、男子バスケットボール部が優勝を飾り、10年振りの“学生三冠”に向けて幸先の良いスタートを切りました。



**橋本 竜馬君**・主将 経済学部経済学科4年

キャプテンとして新チーム結成以来、常に「優勝」「三冠」を意識してきたので、まずは関東大学選手権で結果を残せてうれしく思います。過去3年間でインカレ優勝、準決勝敗退の3位が2回など、喜びも悔しさも味わってきたのが今の4年生。最後の1年は充実の年にします。

**小林 純也君** 経営学部経営学科4年

昨年のインカレ準決勝のような悔しい思いを今年は味わいたくありませんが、今思えば、あの悔しさがチームをレベルアップさせてくれたのかもしれませんが。今年は最後まで笑って1年を過ごせるよう頑張ります。

**湊谷 安玲久司君** 国際政治経済学部国際経済学科4年

今年の目標は「三冠」しかないのですが、ひとつ勝っただけでは、まだまだ喜べません。今年のチームはこれからさらに強くなる“伸びしろ”を感じます。夏の期間にしっかり練習を積み、秋には、よりパワーアップした姿をお見せしたいです。

**宇田川 一馬君** 経営学部経営学科4年

この春の結果に満足することなく、もう一段階上のレベルを目指したいと思います。大学生活最後の一年になるので、とにかく勝っただけです。どんな形でもチームに貢献できるよう常に準備しておくつもりです。

**塩田 歩人君** 文学部英米文学科4年

今年は強いと周りから言われ、多少プレッシャーも感じましたが、春は結果を出せたので良かったです。秋はさらにマークも厳しくなり、プレッシャーも大きくなると思いますが、絶対に「三冠」を勝ち取ります。

サッカー部の武田英二郎君が、Jリーグ横浜F・マリノスと契約



本学サッカー部主将の武田英二郎君(国際政治経済学部4年)が、2011年シーズンよりJリーグの横浜F・マリノスに入団することが内定しました。

武田君は今年の5月、大学に所属しながらJリーグの試合への出場も許可される「特別指定選手」として湘南ベルマーレに所属。5月26日(水)のジュビロ磐田戦では、“プロデビュー”も果たしています。それらの経験と実績が認められての横浜F・マリノスとの契約となりました。



**武田 英二郎君**

国際政治経済学部国際政治学科4年

高校生までマリノスユースでプレーしていたので、横浜F・マリノスは自分にとって一番好きなチームのひとつです。Jリーガーという子どものころからの夢が実現し、本当にうれしく思います。また今春は特別指定選手として湘南ベルマーレにも大変お世話になりました。憧れのプロの試合でピッチに立てたのもベルマーレの方々のおかげです。これらの貴重な経験を活かし、来年度からはプロ意識をより高く持って頑張りたいと考えています。

また、プロへの思いは高まる一方ですが、その前に大学生活最後のリーグ戦にすべてをかけるつもりです。現在は関東大学サッカー連盟の2部に所属しており、何とか1部に昇格して卒業したいと思います。前期を2位で終え、このままいけば昇格もみえてくるので、ぜひ応援をお願いします。

先日の南アフリカのワールドカップで日本代表が善戦しました。日本のディフェンダー陣は層が厚いですが、プロになるからには夢は大きく、4年後のワールドカップ出場を目指します。



## 陸上競技部の竹内一輝君が「第14回アジアジュニア選手権大会」で銅メダル獲得

陸上競技部  
長距離部門

7月1日(木)から4日(日)の日程でハノイ(ベトナム)で開催された「第14回アジアジュニア選手権大会」に、陸上競技部の竹内一輝君が日本代表選手として出場しました。竹内君は、5月23日(日)に国立競技場で開催された「第89回関東インカレ」の男子2部5000m決勝において、青学新記録となる13分53秒39の好タイムで5位入賞。この成績が認められて日本代表選出となりました。

なお、アジアジュニア選手権大会の5000mでは、15分21秒45のタイムで3位に入り、見事に銅メダルを獲得。初の海外遠征で素晴らしい走りを見せてくれました。



## 竹内 一輝君

文学部史学科1年

大学に入って最初のインカレで、ある程度の結果を残せたことは自信になりました。原晋監督の母校でもある広島県の世羅高校の出身ですが、実は高校の監督と原監督とは旧知の仲で、陸上の指導法にも近いものを感じます。大学の練習に比較的スムーズに溶け込めたのもそのおかげかもしれません。

これまで海外でのレース経験はなく、不安と期待が入り混じった気持ちでハノイのスタートラインに立ちました。外国には強い選手が山ほどいるので、そういう選手を相手に、順位や結果ではなく、自分の力を100%出し切ることを一番の目標として走りました。3位という成績以上に、初めての国際レースを思い切り走れたこと自体が大きな収穫であり、貴重な海外遠征だったと思います。

今回経験したことは陸上競技部の仲間にも持ち帰り、少しでもチーム力のアップに貢献できればと考えています。そして10月の出雲駅伝、正月の箱根駅伝ではチームの戦力になれるよう、さらに頑張っていくつもりです。

## レスリングJOC杯ジュニアオリンピックで青木成樹君が優勝



## レスリング部

4月24日(土)・25日(日)に横浜文化体育館で開催された「2010年JOC杯ジュニアオリンピック」において、本学レスリング部の青木成樹君が、男子ジュニアの部グレコローマン55kg級で優勝を飾りました。同大会は7月20日(火)から25日(日)の日程でハンガリー・ブダペストで行われる世界ジュニア選手権の代表選考会も兼ねており、青木君は日本代表の切符も勝ち取りました。



## 青木 成樹君

文学部第二部英米文学科1年

ジュニアオリンピックは、大学生として参加した最初の大きな大会です。高校時代は60kgの階級でやっていたので、55kgに階級を落とした今回は、相手にパワー負けしない自信もあり、絶対に優勝するつもりで臨みました。減量の苦しさはありましたが、試合では思っていた以上にいい動きができ、優勝という結果も残せたので満足しています。高校までと違って、大学では自分自身で考え、より高い意識を持って練習に取り組むことが必要です。今大会ではその成果も出せたのだと思います。

海外遠征は高校時代にも経験していますが、外国の選手はパワーはもちろん、勝ちに対する強い執念が半端ではありません。世界ジュニア選手権は、レベルの高い海外の選手と戦える貴重な経験ですので、今後の自分に何かプラスになるものを掴んで帰って来たいと思います。

まだ大学生活が始まったばかりですが、大学在学中にインカレで優勝することが、ひとつの大きな目標です。自分の持ち味である積極性をさらに磨き、青学の偉大な先輩で同郷でもある長谷川恒平選手のような世界でも通用するアスリートを目指したいと思います。

## 陸上競技部の池田有希さんが関東インカレと日本学生個人選手権大会を制覇

陸上競技部  
短距離部門

5月15日(土)、16日(日)、22日(土)、23日(日)に国立競技場で開催された「第89回関東学生陸上競技対校選手権(関東インカレ)」に本学陸上競技部の池田有希さんが出場し、女子1部400mを自己ベストとなる54秒48のタイム



で優勝。女子1部4×400mリレーではアンカーを務めチームの準優勝に貢献しました。

池田さんは6月20日(日)に平塚市総合公園平塚競技場で開催された「2010日本学生陸上競技個人選手権大会」でも、女子400mを55秒39のタイムで勝利し、見事に2冠を達成しました。

## 池田 有希さん 文学部教育学科4年

青山学院大学に入学してから昨年まで、けがの影響からなかなか良い状態でレースに臨むことができませんでした。今シーズンにかける思いが強かっただけに、両大会の結果には特別なうれしさを感じています。また関東インカレの4×400mリレーでは、後輩たちが期待以上の力を発揮してアンカーの私にバトンをつないでくれました。準優勝という結果にも満足しています。

これまでに、「もう辞めたい」とまで思った大きなけがを2度経験しました。1年生のときは、大会で左足の肉離れを起こし歩くことすらできない状態になってしまい、3年生のときにも練習中にふくらはぎを痛めてしばらく走れない時期がありました。正直、在学中の自己ベスト更新は難しいと思っていたので、関東インカレの記録には自分でも驚いています。私の状態に合わせて綿密にリハビリメニューを考えてくださった監督、励まし続けてくれた仲間たちには心から感謝しています。

9月には学生最後の全日本インカレを控えています。個人の400m、4×400mリレーともに優勝できるよう、コンディションをしっかりと整えて臨みたいと思います。

硬式野球部が東都大学野球入替戦に勝ち越し、1季で1部復帰



硬式野球部

昨秋に東都大学野球2部に降格した硬式野球部は、6月5日(土)から7日(月)にかけて神宮球場で行われた1部・2部の入替戦(対立正大学)において、第1戦と第3戦に勝利し、7カ月振りの1部復帰を果たしました。秋のリーグ戦では“戦国東都”で頂点を目指します。

下水流 昂君・主将 経済学部経済学科4年

もちろん2部降格は悔しかったです。でも2部を経験したことで、「勝ちたい」という思いや、選手一人ひとりの必死さが表に出るようになり、このチームは一回り成長できたと思います。入替戦で対戦した立正大は、昨秋の日本一のチームです。日本一のチームが半年後には2部に降格するので何が起るかわかりません。逆に言えば、1部に戻ったばかりの僕たちにも優勝を目指す資格が十分にあるということ。成長したこのチームでどこまでやれるか自分たちもワクワクしています。

小池 翔大君 文学部第二部教育学科4年

2部に降格してすぐに気持ちを切り替え、「絶対に1季で1部に戻る」ことだけを考えていました。大学生活最後となる秋からのリーグ戦を1部で迎えることができ本当に良かったです。個人的には初の3割を狙いたいと思いますが、まずはキャッチャーとして守りの面で勝利に貢献します。また7月30日(金)から日本で開催される「世界大学野球」のメンバーにも選ばれたので、高いレベルでプレーできる経験を青学にも持ち帰り、秋に備えたいと考えています。

福島 由登君 経営学部経営学科2年

今年の春のリーグ戦では2部の優勝、そして1部への昇格に貢献できて良かったです。全日本大学野球選手権大会で東洋大学が優勝したことからわかりますが、東都のレベルは高く、1部になると当然バッターの技術もかなり上がることが想像できます。それでも「上では通用しないのか」と言われないよう、1部でもしっかり結果を残せるよう頑張りたいと思います。



左から福島君、小池君、下水流君

チアリーディング部が目標としていた春の2大会で規定演技1位を獲得



チアリーディング部

チアリーディング部REESSES(リーセス)は、5月15日(土)、16日(日)開催の「第4回チアリーディング アジア インターナショナル オープン チャンピオンシップ」および、6月5日(土)開催の「第12回関東チアリーディング選手権大会」において、規定演技1位を獲得しました。今期“規定の青山”復活に懸けていたチアリーディング部は、この好結果をステップに、自由演技も含めてさらなるレベルアップを目指します。



左から首藤さん、石原さん

首藤 彩乃さん・主将 社会情報学部社会情報学科3年

私たちが入学してから規定演技でなかなか1位になれませんでした。以前は日本選手権大会で規定演技3連覇を果たし“規定の青山”と呼ばれた時代もあり、今年はそのときの輝きを取り戻そうと、「奪還」をテーマに部員一丸となって練習に取り組みました。出場全チームが決められた同じ技で競う規定演技は、華やかさでは自由演技に及びませんが、高いレベルでのチームワークやひとつひとつの技の正確さ、美しさが問われます。春の2大会で1位を獲得でき、みんなでひとつの“作品”を作り上げることができた喜びで一杯です。これからは自由演技にもより磨きをかけ、両方で1位を目指したいと思います。

石原 実奈さん 総合文化政策学部総合文化政策学科3年

「奪還」という目標のもと、全員の気持ちがひとつになれたことが規定演技で1位を獲得できた理由だと思います。この好結果によってみんな自信を持てたので、これからの演技にも思い切りの良さが出てくるはずですよ。8月27日(金)から29日(日)には、大目標の「JAPANCUP2010 チアリーディング日本選手権大会」が国立代々木競技場第1体育館で開催されます。私たちのモットーである“クリーンで丁寧な演技”をお見せしますので、ぜひ応援してください。

## ●青山スタンダード「キリスト教理解関連科目」特別講座

### バッハ・コレギウム・ジャパン・レクチャーコンサート

7月1日(木)、青山キャンパス・ガウチャー記念礼拝堂において、7回目を迎えるレクチャーコンサートを開催しました。普段の演奏会ではほとんど耳にすることのできない、世界的な指揮者でバッハ演奏の第一人者鈴木雅明氏のレクチャーと、バッハ・コレギウム・ジャパンの演奏を楽しみに、今年もキリスト教音楽に関心をもつ学生諸君はもとより、教職員、一般の方々が多数来場され、開会礼拝前から熱気に満ちた雰囲気となりました。今回、講師の鈴木雅明先生はライブツィヒ時代1727年～29年のカンタータから3曲を取り上げ、音楽におけるバッハの信仰の表現について、時おりユーモアを交えながら、大変示唆に富んだ興味深いお話をしてくださいました。また、このレクチャーコンサートの真髄ともいえる、部分的に演奏を切り出しながら、バッハが音楽によって表現しようとした内容を鈴木先生が丁寧に解説していく場面は、聴衆全員にとって、まさに貴重な体験だったと思います。それぞれの曲のレクチャーの後には演奏が行われ、来年への期待が高まる中、700人を超える超満員の万雷の拍手をもって、コンサートは無事終了しました。



## ●対東北学院大学総合定期戦報告

6月5日(土)から6月7日(月)までの3日間、第61回対東北学院大学総合定期戦が本学にて開催されました。

大会を盛り上げようという学生たちの思いが通じたのか3日間を通し天候にも恵まれ、初日の剣道・柔道などを皮切りに、2日目はラグビー・バレーボール・バスケットボール・バドミントンなど、各会場で熱戦が繰り広げられました。またスポーツだけでなく、吹奏楽部の交歓会や応援団によるリーダー公開が行われ、定期戦を盛り上げました。

総合成績は本学18点、東北学院大学14点と僅差ながら勝利を収め、通算成績を38勝23敗としました。なお6月6日、7日は神宮球場にて硬式野球部入替戦が行われ、定期戦観戦の合間には、東北学院大学の星宮学長をはじめ大学関係者の皆様にも足を運んでいただく等、両校の絆・友情を一層深めることとなりました。歴史あるこの定期戦を次の世代まで残していくことを誓い合い、第61回の総合定期戦は終了しました。



## ●相模原祭のお知らせ

本年度は10月9日(土)、10日(日)に相模原祭を実施します。これまでの相模原祭では人文・社会科学系学部の1・2年生および理工学部の学生が中心となり、展示会、演奏会、ダンス大会、各種模擬店などの催し物が実施されてきました。相模原祭は回数を重ねるごとに大学内外での注目が集まり、より多くの学生が参加する盛大なものになってきており、8回目を迎える今回はさらに充実した学園祭になるものと思われます。現在、実行委員の学生たちが相模原祭を成功させるべく、日夜準備に励んでいます。10月にはきっとご期待に応えられる相模原祭が開催されることでしょう。

## ●2010年度新入生歓迎スポーツ大会

### (バスケットボール、フィットネス体験会)開催

6月20日(日)、相模原キャンパスにおいて新入生歓迎スポーツ大会を開催しました。相模原キャンパス開学以来恒例となっているバスケットボール大会については、A棟アリーナにおいて、一般25チーム、女子8チームによるトーナメント形式にて試合が行われ、一般チームは「NIGIRI」、女子チームは「CUBA」が優勝しました。また、フィットネスセンターによるヨガの体験会が晴天の空の下、A棟前芝生の上で行われ、参加した学生たちは大いに盛り上がりを見せていました。



バスケットボール一般優勝「NIGIRI」



バスケットボール女子優勝「CUBA」



バスケットボール大会風景



バスケットボール大会風景



フィットネス体験会(ヨガ)



フィットネス体験会

## ●課外教育プログラム

### 「2010年度第1回上級救急救命講習会」

5月19日(水)、渋谷消防署にて「2010年度第1回上級救急救命講習会」が学生19名の参加により実施されました。

当日は、インストラクターの方が3名来てくださり、学生は、朝9:00前に渋谷消防署へ集合し、1日にわたる上級救急救命講習会がスタートしました。

午前中はまずテキストをもとに救命の必要性を学び、その後には本講習の柱でもある心肺蘇生(CPR)・AEDの方法をまず理論的に学び、そしていよいよ実践へ。4グループに分かれて実際に人形を用いて救命を必要とする人が倒れていると想定しての人工呼吸、胸骨圧迫、AEDを用いた救命訓練を行いました。初めは恥ずかしさや緊張感からか声が小さい状況でしたが、訓練が進むうちに学生たちも次第に慣れてきたのか声も大きくなり、「救急車をお願いします!」という元気な声が聞こえてくるようになりました。

午後は、乳児・幼児の心肺蘇生から始まりました。乳児・幼児の人形を相手に、気道確保や呼吸の確認を行う指導員を、学生は食い入るように見つめていました。

その後は、止血法や三角巾の使い方、搬送方法等を学び、実際にペアになって三角巾を頭に巻いたり腕に巻いたりという練習を実施しました。最後に「やけど」の話があり、「まず冷やすことが大事だ」という指導がありました。

大変そうに思えた心肺蘇生やAEDも、学生たちにしてみれば、いざやってみるとそれほど難しくはないが、問題は生死をさまよう人間を目の前にして、一人ひとりが勇気ある行動がとれるかどうかにかかっていることを思わされました。普段教室内で講義を受けている学生には、ぜひ一度はこの講習を経験してほしいと思います。



青学オープンカレッジ 青山リレートーク

## 日本外交の課題

— 普天間基地問題と日米関係の将来を中心に —

青学オープンカレッジについては18ページをご覧ください

昨年からはまった青学オープンカレッジでは、学内外のそれぞれの分野での第一人者の方々をお招きして「青山リレートーク」(無料)を開催しています。6月5日に開かれた今年2回目のリレートークでは、元外務事務次官の谷内正太郎氏が日本外交について話をされました。ここにその一部をご紹介します。

## 日本外交における普天間問題

鳩山民主党内閣以前、自民政権は普天間基地を名護市・辺野古に移転する案をもとに、アメリカ政府との調整や沖縄県への説得を10年以上かけて行い、ほぼ足並みが揃う状態になっていました。ところが先の衆議院議員選挙で「普天間の移設先は国外、最低でも県外」と主張した民主党が政権をとったために、これまでの事情を理解し受け入れようとしていた沖縄県民の感情が、実現の難しい政策の方に大きく傾いてしまいました。結局、その方向に話は進展せず、結果として混乱を招いてしまったのは、アメリカとの合意を軽く見た鳩山政権の読みの甘さに一因があったといえるでしょう。外交には一貫性や継続性が必要です。前政権が交わした約束を十分に説明せずに撤回するようなやり方は、日本外交の信用を落とします。

沖縄の基地問題は、日本政府の目的と地元の人々の感情が絡む、たいへんデリケートで難しい問題です。沖縄県内には、「沖縄だけが過剰に負担を強いられている」と感じている方が多くいらっしゃると思います。しかし一方で、防衛戦略上の条件を考えると、沖縄県に大きな負担をお願いせざるをえないのが、わが国の実状といわれています。普天間基地移設をめぐる騒ぎで失われた、アメリカ政府と沖縄県民の信用をいかに修復するかが、鳩山政権から政権を引き継いだ菅政権の大きな課題です。

## 民主党政権の課題

鳩山政権は、海上自衛隊のインド洋での給油活動を十分に説明しないまま中止してしまいました。民主党には「自民党の政策とは違うものになろう」という気持ちがあったのですが、この決定はやはり安易でした。鳩山由紀夫前総理は、給油に替わる支援策として、5年間で50億ドルをアフガニスタンの民主支援に提供することを決定しました。しかし不安定なアフガニスタンの現状では、国民の生活のために資金を適正に運用できるかどうか心配がないわけではありません。また、給油活動については、「資金だけでなく、人を出して貢献している」という諸外国からの評価もありましたし、予算も昨年度を例にあげれば年間24億円程度のものでした。

また、岡田克也外務大臣が鳩山前総理の提唱する「東アジア共同体」の構想にアメリカを入れないという考えを表明したのも、外交的配慮に欠ける行動だったのではないのでしょうか。この構想には、そもそも歴史や文化、習慣の違いから、EUのような共同体を築くことが現実的に難しいという問題があります。アメリカが東アジアの平和と安全を目的とした日米同盟の同盟国である事実を公然と無視したように見えるのは、やはり軽率ではないでしょうか。国際社会の中でリーダーシップを発揮しようとするのは大切ですが、現実味の少ない不明確な外交政策では、他国の支持を得ることは簡単ではありません。



谷内 正太郎  
(元外務事務次官)



開会の挨拶と司会を務めた土山實男副学長

## 志をもった外交に必要な自主独立の精神

明治維新後の変革の時代に、わが国は脅威でもあった欧米列強の文化や技術をとり入れながら、国力を強化し自主独立の道を目指しました。しかし、終戦後のわが国は、それと同時に占領軍としては比較的寛大だったアメリカの影響もあり、「甘えの構造」をもってしまった面があります。普天間基地をめぐる一連の騒動も、「アメリカはなんとか分かってくれるだろう」といった「甘え」があったかもしれません。

現在の日米安全保障条約のもとでは、アメリカは有事の際に日本を防衛する義務を負っています。そういうアメリカの立場をよく考えず、日本の都合だけで合意の撤回を求めた鳩山政権にアメリカが冷ややかであったのは、当然です。わが国が目指すべきは、アメリカが守らざるをえないと思うような「かけがえのない同盟国」になることです。

わが国は日米同盟のもとで、世界第2位の経済大国へと発展しました。しかし、世界的な不況や新興大国が急速な経済発展を見せる中で、その存在感が脅かされつつあります。

自らの国益が何であるかを常に真剣に考えると同時に外交の座標軸を堅持する——そうした自主自立の精神と志をもった外交を展開して世界の国々と接しなければ、わが国は国際社会の中で存在価値を失ってしまいます。大計をもって、国際貢献と国益遵守を目指すことこそ、日本外交の進むべき道ではないでしょうか。





## YOMIURI ONLINEにて 「青山学院スタイル」を 掲載中

読売新聞社がWeb上で展開する「YOMIURI ONLINE」に、大学広報として2007年4月から「青山学院スタイル」を掲載しています。4年目となる2010年4月からは全面リニューアルし、「オピニオン」と題して、青山学院大学の教授陣にさまざまな社会事象を論じてもらう新コーナーがスタートしました。ぜひご覧ください。

(2007年、2008年、2009年のバックナンバーもご覧いただけます)

<http://www.yomiuri.co.jp/adv/agu2010/>

## News Index 2010.4~7

2010年4月~7月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

### 2010年4月

- レスリング全日本ジュニア選手権で青木選手が優勝

### 2010年5月

- 理工学部化学・生命科学科の福井博喜助教が日本化学会第90回春季年会優秀講演賞を受賞
- 第1回グローバル化推進懇談会を開催
- 学校法人青山学院「院長」選任について 山北宣久氏を第13代院長に選任しました

### 2010年6月

- 東海幹夫経営学部教授が、平成22年度「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞
- 理工学部物理・数学科の薩摩順吉教授が、日本応用数理学会 第21代会長に就任しました
- 男子バスケットボール部 創部80周年記念イベント「OBとの交流戦」が開催されました

### 2010年7月

- 「平成22年度 神奈川県女性の理工系進路選択支援事業」の一環として、本学理工学部が、県立藤沢清流高等学校において出張交流会を実施します
- フェンシング部 関東学生リーグ戦で好成績をおさめる
- 東アジアにおける海外拠点として、モンゴルに2つの新たな拠点を設置
- 第2回、第3回グローバル化推進懇談会を開催
- 朴慶南大学総長が表敬訪問
- The new master's program "Strategic Management and Intellectual Property Rights Program (SMIPRP)" at Graduate School of Business has started!

## Club & Circle Information

問い合わせ先  
学生部学生課  
TEL.03-3409-7835

\*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。

下記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

### 主要活動予定(2010年8月~11月)

- 合気道部 青山祭演武会(11月)
- アイススケート部(ホッケー部門) 関東大学アイスホッケーリーグ戦(10月)
- アイススケート部(フィギュア部門) 東日本学生氷上競技選手権大会(10月)
- アメリカンフットボール部 秋期リーグ戦(9~12月)
- 居合道部 第43回東日本学生居合道大会(10月)
- 空手道部 関東空手道選手権大会(10月)
- 硬式庭球部 関東学生テニスリーグ戦(9月)
- 硬式野球部 東都大学秋季リーグ戦(9~10月)
- 拳法部 東日本選手権(10月)
- 航空部 第13回全日本学生グライダー新人競技大会(10月)
- 射撃部 秋季首都十大学定期戦(10月)
- サッカー部 JR東日本2010第84回関東大学サッカーリーグ戦(9~11月)
- 柔道部 東京学生柔道体重別選手権大会(9月)
- 準硬式野球部 東都大学準硬式野球秋季リーグ戦(9~11月)
- 少林寺拳法部 第44回少林寺拳法全日本学生大会(11月)
- ソフトテニス部(男子) 東都秋季リーグ戦(10月)
- ソフトテニス部(女子) 東都秋季リーグ戦(10月)
- 水泳部 日本学生選手権(9月)
- 卓球部 関東学生秋季卓球リーグ戦(9月)
- チアリーディング部 チアリーディング日本選手権大会(8月)
- 軟式野球部 東都大学軟式野球連盟秋季リーグ(9~10月)

- バスケットボール部(男子) 第86回関東大学バスケットボールリーグ戦(9~10月)  
第62回全日本大学バスケットボール選手権(11~12月)
- 馬術部 第45回オリンピック記念馬術大会(10月)
- バドミントン部(男子) 関東大学バドミントン秋季リーグ戦(9月)
- バドミントン部(女子) 関東大学バドミントン秋季リーグ戦(9月)
- バレーボール部(女子) 平成22年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦(9~10月)
- バレーボール部(男子) 平成22年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦(9~11月)
- パワーリフティング部 関東学生選手権(11月)
- ハンドボール部 関東学生ハンドボールリーグ秋季大会(9~10月)
- フェンシング部 関東学生選手権大会(10月)
- ヨット部 関東学生ヨット秋季選手権大会(10月)
- レスリング部 全日本学生王座決定戦(9月)
- 陸上競技部 第22回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10月)
- ラグビー部 関東大学対抗戦Bグループ公式戦(9~11月)
- 箏尺八研究会 定期演奏会(10月)
- 競技ダンス部 松前杯争奪学生競技ダンス選手権大会(9月)
- E.S.S 第59回チャールズ杯争奪全日本高等学校学生英語弁論大会(11月)
- オーケストラ部 第97回定期演奏会(11月)

### 主要活動報告(2010年5月~7月)

- 硬式野球部 東都大学春季2部リーグ戦 1位  
東都大学春季リーグ1部・2部入替戦 勝利
- バスケットボール部(男子) 第50回関東大学新人戦記念大会 1位  
第59回関東大学バスケットボール選手権大会 1位
- ギターアンサンブル部 第45回関東学生ギター連盟定期演奏会
- リズムマンドリン部 ジョイントコンサート(他大学とのジョイント)
- グリーンハーモニー合唱団 東京六大学混声合唱連盟 第52回定期演奏会
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ トライアングルコンサート

## 2010年度ペアレンツウィークエンド 今後の開催日程

2010年度ペアレンツウィークエンドの今後の開催日程をお知らせいたします。  
お申し込みは、ご案内に同封の専用ハガキ、もしくは青山学院大学ウェブサイト上で受付中です。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

### キャンパス開催

学部	実施日	開催場所
社会情報学部	10月10日(日)	相模原キャンパス

開催時間●13:00~16:30

対象：どなたでもご参加できます(懇談会内容は、主に2・3年生を対象としています)。

【ペアレンツウィークエンドに関するお問い合わせ先】

庶務部庶務課

TEL.03-3409-8568(ダイヤルイン)

ペアレンツウィークエンドURL

<http://www.aoyama.ac.jp/target/parents/>



学部別全体説明会(青山キャンパス)

### 地区開催

会場	実施日	開催場所
鹿児島	7月31日(土)	城山観光ホテル
名古屋	8月1日(日)	キャッスルプラザ
長崎	8月7日(土)	長崎全日空ホテルグラバービル
長野	8月8日(日)	ホテルメトロポリタン長野
福岡	8月8日(日)	ホテルオークラ福岡
高知	8月21日(土)	三翠園
函館	8月21日(土)	ロワジュールホテル函館
札幌	8月22日(日)	ホテルオークラ札幌
水戸	8月28日(土)	三の丸ホテル
広島	8月28日(土)	ホテルグランヴィア広島
大阪	8月29日(日)	リーガロイヤルホテル大阪
郡山	9月5日(日)	郡山ビューホテルアネックス

開催時間●10:30~15:00(会場によって時間が異なる場合があります)

対象：お住まい近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

## 大学学費後期納付について

【納入期限】 9月30日(木) ※7月1日(木)から納入いただけます

### 1. 振込依頼書について

#### 1) 2009年度以前に入学された方

本年4月上旬にお送りした納付書の「B 後期分」をご利用ください。  
ただし、教職・各種資格課程を申請された方は、後期納入必要金額に変更が生じています。該当する方には、7月1日に再度振込依頼書を送付しておりますので、7月送付分をご利用ください。  
前後期一括で学費等を納入済みの方には、教職・各種資格課程料のみの振込依頼書をお送りしていますので、記載金額をお振込みください。

#### 2) 2010年度入学者

- ① 入学手続き時に前期分学費等を納入された方  
7月1日に後期分の学費等振込依頼書を送付しました。  
教職・各種資格課程を申請された方は、後期学費に教職・各種資格課程料が加算されています。
- ② 入学手続き時に前後期分一括で学費等を納入済の方  
教職・各種資格課程を申請された場合、教職・各種資格課程料のみの振込依頼書を7月1日に発送しました。記載金額をお振込みください。

### 2. 振込手続について

本学指定の振込依頼書を利用し、金融機関窓口でお振込みください。  
ATM・インターネットバンキング等を利用してお振込みの場合は同封の案内文書をご参照ください。

### 3. 学費に関するご相談・お問い合わせ先

振込依頼書裏面に記載の「ご相談・お問い合わせ先」にご連絡ください。

### 4. 振込依頼書再発行のご依頼(未着・汚破損・紛失等)

青山キャンパス所属の方 学生部学生課 TEL.03-3409-7835  
相模原キャンパス所属の方 学生生活グループ TEL.042-759-6004

(※大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

### 2010年度後期学費一覧表 (2007~2010年度入学生)

単位:円

学 部	金 額
文 学 部	391,500
教育人間科学部	
経 済 学 部	
法 学 部	
経 営 学 部	
国際政治経済学部	565,500
総合文化政策学部	
理 工 学 部	
社会情報学部	478,500
文学部 第二部※1	246,000
経済学部 第二部※2	
経営学部 第二部※2	

・教育職員免許状、各種資格取得の希望を申請した方は、別途教職課程料・各種資格課程料が加算されます。

教職課程料7,000円、司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員(各2,000円) 教職課程料・各種資格課程料は、申請年度ごとに納付いただきます。

・休学、留年、卒業延期、転部、編入学、転学部(学科)、再入学等をされた方は、上記学費一覧表と異なる金額が適用される場合があります。

※1…教育学科は2007・2008年度入学生

※2…2007年度入学生

## 学部4年次留年生(休学期間を除いた在籍期間が5年以上)の後期学費納付について

【納入期限】 11月12日(金)

### 1. 振込依頼書発送時期

10月15日(金)

### 2. 納入金額

- ① 前期分を所定の学費で納入した方  
→後期学費は、4年次所定の後期学費(後期授業料)となります。  
前期・通年科目申請単位数で、すでに「年間所定の学費上限金額」に達しています。  
そのため、後期科目申請単位数に関係なく、前期分・後期分とも所定の学費を適用します。

### ② 前期に申請単位計算学費で納入した方

→後期学費は、下記の計算式で算出した、単位計算学費となります。

**単位計算学費=後期科目申請単位数×単位料**

ただし、上記で計算した後期分の単位計算学費と前期納入済金額の合計が「年間所定の学費上限金額」に達した場合は、下記の計算式で算出した金額を適用します。

**後期納入必要額=年間所定の学費上限金額-前期納入済額**

納入必要予定額の確認は、財務部本部資金グループにお問い合わせください。

財務部 本部資金グループ TEL.03-3409-6479(直通)

## 2010年度「青学オープンカレッジ」夏期講座が開講します

8月中旬より、青学オープンカレッジ夏期講座が開講します。「美を求めて」「文学の世界」「歴史を探る」「国際政治を読む」「ビジネス・経済」等に、新たに「英語」「ヘルスケア」「ものづくり」というテーマを加え、全29講座をご用意します。昨年に引き続き、青山学院大学の近隣の美術館や新橋演舞場のご協力を得て、単に講義を受けるだけでなく、受講生が講座に参加するかたちの本学ならではの講座を設けました。

また、各界の著名な方々による全5回の連続講演会を「青山リレートーク」として開催しており、第1回5月29日(土)福岡伸一氏(青山学院大学教授)、第2回6月5日(土)谷内正太郎氏(元外務事務次官)、第3回7月3日(土)平川祐弘氏(東京大学名誉教授)

をお招きし、多くの方にご来場いただきました。なお、第4回は10月9日(土)芳賀徹氏(東京大学名誉教授・静岡県立美術館館長)、第5回は11月6日(土)榊原英資氏(青山学院大学特別招聘教授)を予定しています。

「青山学院で学ぶ 贅沢な時間」を共に過ごしませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

青学オープンカレッジ詳細については、下記URLにて随時、更新していきます。

\*青学オープンカレッジパンフレット請求

青学オープンカレッジ各講座申込

<http://www.j-aoyama.jp/>

お問い合わせ先:青学オープンカレッジ事務局 TEL.03-3409-8501

受付中

## 夏期休業期間中の窓口案内

対象期間 8/6(金)～9/18(土)

※ただし、8/8(日)～8/14(土)は一斉休業期間のため事務取扱を停止します

部 署	窓口事務取扱期間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
庶 務 部	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	9/18(土)より平常通り
教 務 課	8/16～9/17	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	8/6(金)は閉室 9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～19:00(11:30～14:00は除く)	8/16(月)～9/17(金)は総研ビル2階講師 控室で取り扱います
教 職 課 程 課	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～11:30	
学 生 部	8/16～9/17	火・木	9:00～19:00(12:00～13:00は除く)	8/6(金)は閉室 9/18(土)より平常通り
進路・就職センター事務室	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～11:30, 12:30～15:30	9/15(水)、9/16(木)は閉室
進路・就職センター資料室	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	9/15(水)、9/16(木)は閉室
図 書 館	8/6,8/16～9/11 (8/7は停電のため休館)	月～金	9:00～19:00	9/12(日)より平常通り 休館中の本の返却は 図書館正面のブックポストに入れてください
	9/18	土	12:00～19:00	
大 学 院 事 務 室	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～13:00(11:30～12:30は除く)	
専 門 職 大 学 院 事 務 室	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
広 報 入 試 セ ン タ ー	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	9/18(土)より平常通り
総 合 研 究 所 事 務 室	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り 総合研究所図書館は夏期休業期間閉室
	8/16～9/10	月～金	9:00～19:00	
情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー	9/13～9/18	月～土	9:00～19:00	8/6(金)は停電対応のため休止 9/21(火)より平常通り
	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
国 際 交 流 セ ン タ ー	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
外 国 語 ラ ボ ラ ト リ ー	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
学 生 相 談 セ ン タ ー	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
保 健 管 理 セ ン タ ー	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～11:30	
宗 教 セ ン タ ー	8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	8/6(金)は閉室 9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～13:00	

ユ ニ ッ ト	グ ル ー プ	窓 口 事 務 取 扱 期 間	曜 日	取 扱 時 間	備 考
学 生 支 援 ユ ニ ッ ト	ス チ ュ ー デ ン ト セ ン タ ー				
	学 務 グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
	進 路 グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
	学 生 生 活 グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
	国 際 交 流 セ ン タ ー	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
	健 康 管 理 グ ル ー プ (保 健 管 理 セ ン タ ー 事 務 室)	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
健 康 管 理 グ ル ー プ (学 生 相 談 セ ン タ ー 事 務 室)	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)		
教 育 ・ 学 習 支 援 ユ ニ ッ ト	授 業 支 援 グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
	情 報 教 育 支 援 グ ル ー プ (情 報 科 学 研 究 セ ン タ ー)	8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	8/6(金)は閉室
	9/18	土	9:00～13:00	9/21(火)より平常通り	
	図 書 グ ル ー プ ( 図 書 館 )	8/6,8/16～9/11	月～土	9:00～16:00(土曜のみ12:00から)	9/20(月・祝)・9/23(木・祝)は 10:00～17:00開館 9/21(火)より平常通り
メ ディ ア ラ イ ブ ラ リ ー グ ル ー プ	9/13～9/18	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		
研 究 支 援 ユ ニ ッ ト	メ ディ ア ラ イ ブ ラ リ ー グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/21(火)より平常通り
	9/18	土	9:00～13:00		
庶 務 ユ ニ ッ ト	研 究 支 援 グ ル ー プ				
	企 画 ・ 渉 外 グ ル ー プ				
施 設 ユ ニ ッ ト	庶 務 グ ル ー プ	8/6,8/16～9/17	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/18(土)より平常通り
	施 設 グ ル ー プ				
	財 務 部 大 学 相 模 原 経 理 グ ル ー プ				
	宗 教 セ ン タ ー	8/16～9/17	月～金	9:00～16:00	8/6(金)は閉室 9/18(土)より平常通り

## 学生支援の奨学金募金

### 「青山学院 エバーグリーン募金」

「奨学金募金」はご寄付により奨学金を給付し、学生を支援する募金制度です。勉学および課外活動に意欲的な学生、困難の中で懸命に努力する学生を経済的側面から支援し、学費や生活費の負担軽減で、学生に安心と充実を与えるものです。

皆様一人ひとりの思いやりが大きな支援につながります。

ご協力をお考えの際は、募金事務局までご連絡ください。パンフレットをお送りいたします。

ご協力を  
お願いします

募金事務局(間島記念館1階)

TEL.03-3409-6208 FAX.03-3409-3890

## AOYAMA GREEN FESTIVAL

(第17回 青山学院大学同窓祭) 開催のお知らせ

2010年9月23日(木・祝)9:30～ 青山キャンパスにて開催

■特席 青山寄席

六代目三遊亭円楽師匠 一襲名記念— 11:30～ ガウチャー記念礼拝堂にて

■教育学科同窓会創立10周年記念シンポジウム

「日本の教育を考える —学力の低下とその原因—」

15:00～17:00 総研ビル12階大会議室にて

■ピーターラビット エコステージ

■体育会応援プロジェクト など

その他『Shall we dance? 2010』、『公開講座』、『法律税務等相談』など、皆様にお楽しみいただける企画が目白押しです。また、例年好評の模擬店・出店・福引抽選会もますます充実! 夕刻からはアイビーホールにて懇親パーティーを開催。各種イベントへの参加も募集中です。

詳細は同窓祭ホームページ<http://aogaku-doso.jp>をご覧ください。

お問い合わせ先

大学同窓祭実行委員会事務局

TEL.03-3409-8990 E-mail: alumni@netlaputa.ne.jp



## 2011年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験日程

### ●一般入学試験

[全学部日程] 試験会場：青山キャンパス

※ただし、志願者状況により「青山キャンパス」のほか、「相模原キャンパス」で実施することがあります。

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
全学部・学科(注)	1/4(火)~1/22(土) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/7(月)	2/14(月)	2/21(月)

(注) 社会情報学科はA方式・B方式で募集。

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(木)です。

[個別学部日程] 試験会場：青山キャンパス

学部・学科・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
総合文化政策学部 総合文化政策学科(A方式)		2/9(木)	2/15(火)	2/22(火)
社会情報学部 社会情報学科(A方式・B方式)				
理工学部 物理・数理学科(A方式) 化学・生命科学科(A方式) 電気電子工学科(A方式) 機械創造工学科(A方式) 経営システム工学科(A方式) 情報テクノロジー学科(A方式)		2/10(木)		
理工学部 物理・数理学科 (B方式・センタープラス方式) 化学・生命科学科 (B方式・センタープラス方式) 電気電子工学科 (B方式) 機械創造工学科 (B方式・センタープラス方式) 経営システム工学科(B方式) 情報テクノロジー学科 (B方式・センタープラス方式)	1/4(火)~1/25(火) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/17(木)	2/24(木)	
文学部 英米文学科(A方式) フランス文学科(A方式) 日本文学科(B方式) 史学科(A方式)		2/13(日)		
教育人間科学部 教育学科(B方式) 心理学科(A方式)			2/20(日)	
文学部 英米文学科(B方式) フランス文学科(B方式) 日本文学科(A方式) 史学科(B方式)		2/14(月)		2/28(月)
教育人間科学部 教育学科(A方式) 心理学科(B方式)				
経済学部 経済学科(A方式・B方式) マーケティング学科(A方式・B方式)		2/15(火)	2/21(月)	
法学部 法学科(A方式・センタープラス方式) 総合文化政策学部 総合文化政策学科(B方式) 国際政治経済学部 国際政治学科(A方式・B方式) 国際経済学科(A方式・B方式) 国際コミュニケーション学科(A方式・B方式)	1/4(火)~1/29(土) 郵送受付に限ります (締切日消印有効)	2/17(木)	2/23(水)	3/2(木)
経済学部 経済学科(A方式・B方式) 現代経済デザイン学科(A方式・B方式)		2/18(金)	2/24(木)	3/3(木)
		2/19(土)	2/25(金)	3/4(金)

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(木)です(正規合格者のみ対象)。

### ●大学入試センター試験利用入学試験

[前期日程]

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
文学部 英米文学科 フランス文学科 日本文学科 史学科				
教育人間科学部 教育学科 心理学科				
経済学部 経済学科 現代経済デザイン学科(2教科型・3教科型・4教科型)				
法学部 法学科(3教科型・4教科型)				
経済学部 経営学科 マーケティング学科	1/4(火)~ 1/15(土)	1/15(土) 1/16(日)	2/14(月)	2/21(月)
国際政治経済学部 国際政治学科(3教科型・4教科型) 国際経済学科(2教科型・3教科型・4教科型) 国際コミュニケーション学科	郵送受付に限ります (締切日消印有効)			
総合文化政策学部 総合文化政策学科				
理工学部 物理・数理学科 化学・生命科学科 電気電子工学科 機械創造工学科 経営システム工学科 情報テクノロジー学科				
社会情報学部 社会情報学科				

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。

※入学手続締切日までに、入学金を除く学費等についての延納(入学申込手続)を希望した者の入学完了手続締切日は3月24日(木)です。

[後期日程]

学部・学科	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日
法学部 法学科				
経済学部 経営学科 マーケティング学科	2/25(金)~ 3/3(木)	1/15(土) 1/16(日)	3/12(土)	3/18(金)
国際政治経済学部 国際政治学科 国際経済学科 国際コミュニケーション学科	郵送受付に限ります (締切日消印有効)			
社会情報学部 社会情報学科				

※各学部・学科とも、個別学力検査等は課しません。

## 前期終了科目成績通知について

前期終了科目の成績評価は9月13日(月)より学生ポータルメニュー「成績通知書」にて通知します。学外PCから閲覧する場合は、あらかじめ学内でSecureMatrix/パスワードの登録を済ませておく必要があります。(詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。)

## Club&Circle 3 白馬ヒュッテ運営委員会

### 長期休暇には「青山山荘」で楽しく過ごしましょう。

白馬ヒュッテ運営委員会は、大学が長野県梅池高原に所有するペンション「青山山荘(白馬ヒュッテ)」の運営を行っている団体です。学生自身の手で山荘を運営している団体は、日本全国の大学でも本学だけ。長期休暇中は現地では山荘の管理や利用者のお世話をするなど、通常では味わえない特別な体験ができます。山荘を利用した学生と仲良くなり、普段の大学生活における友人の輪が広がることも多く、「学生間の交流」が私たちの活動の幹と言えるかもしれません。

いろいろな人との交流を重ねることでコミュニケーション能力が身につく、各自に割り当てられた仕事・役割をこなすことで責任感が芽生えるなど、委員会の活動を通じて人間としても大きく成長できます。もっと青山山荘の利用者を増やすとともに、私たちの団体を知っていただけるように、これからも頑張ります。(委員長：法学部3年 高橋かずみ)



学生の手で運営される「青山山荘」



現地では楽しいイベントも企画してます!

※詳細・予約は、  
白馬ヒュッテ運営委員会  
TEL.03-3407-0388まで

## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口 青山キャンパス→学生部厚生課  
相模原キャンパス→チュードセンター・学生生活グループ

青山学院大学 ● 2010年7月27日発行 ●

